No. 1

（行政視察・政務活動・議員研修）報告書

平成２９年４月１４日

白石市議会議長　佐久間　儀　郎　殿

議員氏名　菊地忠久

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期　　間	平成２９年　３月　30日（木）　～　３月　31　日（金）
調査・研修先	衆議院第２議員会館、海老名市立中央図書館
調査事項 （研修事項）	⑴地方創生の課題と展望 ⑵森林・林業・木材産業の現状と課題 ⑶白石市の交通インフラについて ①スマートインターチェンジについて ②道の駅について ③国道４号白石地区付加車線整備について ⑷海老名市における指定管理者による図書館運営について
対応者・講師等	⑴内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局　寺田仁史参事官補佐 ⑵林野庁林政部企画課　有山隆史課長補佐 林野庁林政部木材利用課　杉材浩史課長補佐 ⑶国土交通省道路局国道・防災課　竹内勇喜課長補佐 国土交通省道路局国道・防災課　和田　係長 国土交通省道路局　高速道路課　柴田芳雄企画専門官 ⑷海老名市立中央図書館　副館長

白石市議会
29.4.14
庶務

概　　要	⑴**地方創生の課題と展望**
① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 （感想、課題、政策提言等）	◎背景 ・日本の総人口は、今後100年間で、100年前の水準に戻っていく可能性があり、歴史的に見ても極めて急激な減少である。 ・白石市も2010年に37,422人であった総人口が、2040年には24,965人になると推計されている。 ・地方から、大都市への人口移動が生じている。東京圏への転入超過数の大半は20～24歳、15～19歳が占めており、大卒後就職時、大学進学時の転入が考えられる。 ・三大都市圏、特に東京圏の出生率は極めて低い。 ・地方では、高齢者数も減少し始めた地域もある。 ・地方経済と大都市経済で格差が存在する。 ◎地方創生の経緯 平成26年度～　総合的な施策メニュー整備 平成27年度～　地方版総合戦略の策定終了 平成28年度～　本格的な「事業展開」 ◎まち・ひと・しごと創生総合戦略（2016改訂版）の主なポイント ・ローカルアベノミクスの一層の推進 　地域におけるしごと創出、地域における資産・人材の活用 ・地域特性に応じた政策の充実・強化 　東京圏への人口転出が続いている地域 　今後急速な社会減・自然減が予想される地域 ・地域生活の魅力の見直し 　働き方改革を含めたライフスタイルの見つめ直し ⇒地方が「自助の精神」をもって取り組むことが重要であり、国は意欲と熱意ある地域の取り組みを、情報、人材、財政の3つの側面から支援 ◎白石市と類似自治体の地方創生事例 ①北海道網走市　「東農大オホーツク　ものづくり・ビジネス地域創生塾」「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾」を社会人向けに実施。ものづくり（商品開発）を学び、受講生が将来実現したい商品開発、事業化プランを作り上げる。 ②岩手県紫波町　「オガールプロジェクト」 民間を最大限に利用した補助金に頼らないまちづくり。身の丈に合った事業構築。「稼ぐインフラ」の実現。手つかずのマーケットを事業化して付加価値を創出。 ③島根県雲南市吉田町　「㈱吉田ふるさと村」

	地域住民の発意によって会社を立ち上げ、商品開発やコミュニティバスの運行など多くの事業を行う。雇用拡大に貢献。地元住民のほか、これまで14名のＵターン・Ｉターン者が就業。 **⑵森林・林業・木材産業の現状と課題** ◎森林の現状と課題 ・日本は国土面積の３分の２が森林面積で世界有数の森林国。 ・人工林の半数以上が主伐期を迎え、資源の有効活用と計画的な再造成が必要になっている。 ・森林の多面的機能を理解し、望ましい森林の姿を目指して整備・保全が必要。 ・地球温暖化対策のためにも森林の果たす役割は大きい。 ◎林業の現状と課題 ・日本の林業産出額はピーク時、年間1.2兆円あったが、近年は約4,000億円前後で推移。 ・木材価格は需要の低迷や輸入材との競合によって長期的に下落してきたが、近年はおおむね横ばい。 ・森林所有者の９割が小規模・零細。高齢化も進んでいる。 ・林業経営の中核者は、所有者から委託を受け作業する会社や森林組合等。 ・生産性は向上しているが低位。意欲ある者への施設集約化や低コストで効率的な作業システムの普及・定着等が課題。 ・森林施業の集約化、生産性と経営量の向上、人材の育成・確保、山村の振興などの推進が必要。 ◎木材産業の現状と課題 ・木材供給量は需要減により、平成８年以降は減少傾向。 ・木材輸入量は平成８年以降減少傾向で推移。国産材の供給量は、増加傾向。木材自給率　平成14年18.8%→平成27年33.2% ・原木供給体制は、施業が小規模・分散的に行われ、原木のとりまとめや川上と川中・川下との間で需給情報の共有が十分でないといった課題。 ・大型工場の設置の進展に伴い、一定の数量の原木を調達するために、製材用材、合板用材、チップ用材の用途を問わず、国産材の流通は都道府県域を超え広域化している。 ・競争力強化、非住宅分野における木材利用の拡大、新たな製品・技術の開発や普及、木質バイオマスのエネルギー利用、木材輸入対策と違法伐採対策などの推進が必要。

	⑶白石市の交通インフラについて ①スマートインターチェンジについて ・スマートICの準備段階（地方での計画検討・調整段階）において、国として必要性が確認できる箇所等について箇所を選定し、その後、国が調査（直轄調査）を実施（準備段階調査）。 ・準備段階調査における準備会での検討や調整を整い、関係機関で構成される地区協議会で決定された実施計画書が提出された箇所につき新規事業化。 ・全国でスマートICは87箇所開通（H28.12月）。宮城県内は6箇所開通（H29.4月）。 ②道の駅について ・目的は「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」「地域の振興」である。 ・3つの機能 「休憩」　24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ 「情報発信」道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供 「地域連携」文化教養施設、観光レクレーション施設などの地域振興施設 ・設置者は市町村またはそれに代わり得る公的な団体（県や第三セクターなどの例があるが、約98%は市町村が設置） ・道路管理者と市町村等で整備する「一体型」→617駅（56%） （駐車場やトイレ、情報提供施設を道路管理者が整備する） ・市町村ですべて整備を行う「単独型」→490駅（44%） ・整備する場合の交付金等の事例 ‣駐車場、休憩施設、トイレ、道路状況提供施設等 ‣非常用電源や防災資材倉庫など防災機能を有する施設等 →社会資本整備総合交付金等（国交省） ‣地域振興交流施設、農産物直売所等 →目的によって市町村で検討。整備財源として様々な交付金・補助金の組み合わせが考えられる。 ③国道4号白石地区付加車線整備について ・平成24年度事業着手。越河地区の国道4号線の上り線に付加車線を区間2.2㎞で整備する。用地買収及び工事進捗中。 ・用地進捗率約80%（H29.3末）。 ・現在起点側の300m区間で工事進捗中。 ・平成28年度予算（約1億2,000万円）を活用し、引き続き工事進捗予定。

⑷海老名市における指定管理者による図書館運営について

・民間業者カルチュア・コンビニエンス・クラブ㈱（以下 CCC）が指定管理者として運営するいわゆる「TSUTAYA 図書館」

・それまで平成 23～25 年と図書館の窓口業務を民間委託して市民サービスに務めてきた海老名市は、より市民目線に立ったサービスを期して CCC に指定管理を依頼、築 30 年の図書館内部を改修し、平成 27 年 10 月にリニューアルオープンした。

・蔵書数約 31 万冊。建物は地上４階地下１階。

・リニューアル後、来館者数、貸出者数、図書貸出者数とも大幅に増加。

◎特色

①図書館と書店の融合

蔦屋書店が併設され、本や文房具、雑貨などが購入できる。販売されている図書は自由に読むことができる。

②関東最大級の LIBRARY＆CAFÉ

スターバックスも併設され、購入した飲料は館内で自由に飲める。

③各階ごとにコンセプトがあり、書籍の種類や内装、BGM が異なる。

■考察

1 日目の議員会館での各省庁職員による説明、2 日目の海老名市中央図書館での視察、2 日間とも実りのある研修となった。

現在の山積している行政課題のほとんどは、人口減少に起因しているといっても過言ではないほど、人口減少は大きな問題である。

そのために国としても地方創生の様々なメニューを用意して支援する体制がとられている。けれどもそれは「意欲と熱意ある」地域に対して行なわれるものだと実感した。成功事例として示された地域は、民間主導であったり、他にはない独自のことに取り組んだことが成功の大きな要因であろう。白石市は位置・歴史・文化・自然・交通インフラ等、恵まれた環境にある。これらを単独ではなく、複合的に活かすことができれば地方創生も成功すると確信する。必要なものは強烈な個性であり、そのために官民学が一体となって知恵を絞っていきたい。

林業関係について研修前、特に再生エネルギーである木質バイオマスについて、興味があった。今後、再生可能エネルギーとして非常に期待できる分野だと考えていた。確かに木質バイオマスの導入・利用は増加しているが、現状では化石エネルギーと比べ経済的にも熱効率的が悪いとのこと。

林野庁としては「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」があるため推進しているが、そうでなければ課題が多いようである。

	白石市の交通インフラについては、私は議会でスマートインターチェンジ設置推進特別委員会の委員であることから、スマートICについて詳しく説明を受けられたことが良かった。 例えば「こういうとことにポイントを置けば設置認可が受けやすい」というものは特に存在しないそうである。大事なことは国による準備段階調査の段階であり、ここで自治体も並行して、じっくりと調査を進めることが必要である。観光や物流、利便性の向上が期待できるスマートICは、これからの白石には絶対に必要な施設である。様々な視点からしっかりと議論を進め、設置に向けて努力していきたい。 海老名市立中央図書館の建物自体は古いが内部はきれいで、洗練されたデザインなど、利用者のために様々な工夫が見られ、まさにブックカフェのようであった。春休み期間中とはいえ、平日にもかかわらず多くの来館者がいたことも納得できる。 書店併設ということで、従来の図書館では弱い部分である「新刊本や雑誌」が充実していることが印象に残った。また、「一度張ってしまうと際限がなくなる」ことから壁などにポスターや広告など紙の貼物が一切なく、代わりに館内10か所のデジタルサイネージも印象に残るものであった。デジタルサイネージは、コストはかかるが白石でも公共施設（特に市役所庁舎）に導入を検討すべきと考える。 リニューアル後、開館時間を延長したこともあり、全体の運営コストは増加したそうである。 老朽化した白石市図書館も遠くない将来、建て替え等が必要である。海老名市の図書館は確かに利用したくなる素晴らしい図書館であり、参考にすべき部分も多いが、自治体の規模を考えるとそっくり同じようなものを白石に作るのは難しいだろう。 利便性や魅力向上と建設・運営コストの両立を図りながら、特色ある「白石にふさわしい」、あらたな図書館建設も時間をかけ議論していきたい。